

長崎県病害虫防除所



さよひめだより



発行 長崎県病害虫防除所 〒854-0062 諫早市小船越町3170 TEL:0957(26)0027 FAX:0957(25)1299



ヒメトビウンカ薬剤感受性検定



ブロッコリー根こぶ病試験



ミカンハダニ薬剤感受性検定



河川の農薬濃度調査

農薬安全使用のお願い

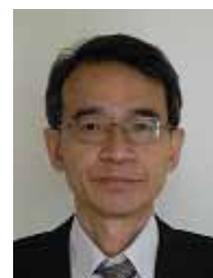
病害虫防除所は病害虫の発生予察が主な業務ですが、その他に、農薬の安全使用に関する事業も実施しています。具体的には、防除基準の作成・防除対策に関する事や、農薬の適正使用、農薬販売業者の指導等です。

農薬はその製造、販売、使用の各段階において農薬取締法で罰則のある規制をうけています。農薬の登録においては、各種の試験が行なわれ、安全性が確認、担保されています。

また、食品衛生法の定める残留農薬基準を絶対に超えないように、農薬は作物ごとに対象病害虫、希釈倍数、使用量、使用時期等が使用基準で細かく定められています。

つまり、使用基準を遵守して使う限りにおいて、農薬の残留が問題となることは決してありません。しかしながら、隣の畑に散布された農薬の飛散や、不十分な防除器具の洗浄が原因と思われる、残留農薬の事故が年間に数件ほど発生しています。直ぐに健康問題を生じるような水準ではありませんが、食品の安全性に高い関心をもつ消費者に対して、出荷産地の信用や他の県産農産物のイメージに悪い影響を与えることが懸念されます。

大きな事故の前には、多くの小さいミスがあるといえます。使い慣れた農薬や防除器具であっても、ラベル記載事項やホース継手の確認など農薬の散布作業での基本的な安全対策を御願います。



病害虫防除所

所長 岩坪友三郎

ヒメトビウンカの海外飛来を予測する情報システム

今年度から実用技術開発事業「ヒメトビウンカの海外からの飛来を予測する実運用情報システム」に取り組んでいます。水稻害虫のヒメトビウンカは、ウイルス病である縞葉枯病を媒介します。これまで縞葉枯病は、日本で越冬した土着の個体群が発生原因とされてきましたが、本県で2008年に多発したのは海外から飛来してきた個体群によるものと考えられています。また、海外から飛来した個体群は、薬剤に対する感受性が土着のものとは異なっていました。このため、ヒメトビウンカの海外からの飛来をできるだけ正確に把握し、その予測情報を迅速に伝え、防除対策として利用されることで縞葉枯病の被害低減につなげることを目的として、以下の課題について各機関と連携して実施しています。



縞葉枯病



ヒメトビウンカ

ヒメトビウンカ飛来予測手法の開発

(独)九州沖縄農業研究センターと佐賀県農業試験研究センターが連携して、ヒメトビウンカの飛来源からの飛び立ち時間帯と飛来源での推定飛来移出日の地域差を解明し、それを予測モデルに取り入れ飛来予測手法を確立します。

飛来情報提供システムの開発

日本植物防疫協会が主体となって上記の研究で得られた知見を取り入れた正確で使いやすい飛来予測システムをインターネットサービスとして実現し、全国の病害虫防除所が利用できるようにします。

普及支援業務

長崎県病害虫防除所が主体となって、飛来情報提供システムの技術評価や同システムの利用普及活動を行います。また、ヒメトビウンカの海外飛来が起こった場合は、発生調査を行い、薬剤感受性検定等による飛来地域の検証を行います。

マイナー作物の農薬登録促進

マイナー作物とは国内生産量が3万トン以下の作物のことを指します。マイナーと言いつつも地域では特産物としてメジャー級の位置付けであることが多く、例えばアスパラガスはマイナー作物ですが長崎県では振興作物です。

マイナー作物では、一般的に全国レベルでの農薬使用量が少ないことから、農薬登録拡大が進まないのが現状です。そのため、病害虫防除が思うようにできず、安定生産に支障をきたす場合があります。各都道府県ではマイナー作物の安定生産技術を確立し振興するため、国や農薬メーカー、都道府県間で協力しながら農薬登録促進に取り組んでいます。具体的には、登録しようとする農薬の効果試験や作物残留試験を行い、得られたデータを農薬メーカーに提供し農薬メーカーが登録申請を行っています。

長崎県でも様々な作物において、現場の要望を聞き取りながら関係機関と協力して農薬登録促進に取り組んでいます。本年度、病害虫防除所では「葉たまねぎ」の作物残留試験を行っている最中です。

総合的病害虫管理(I.P.M.)の取り組みがマイナー作物も含め様々な作物において盛んですが、その中でも農薬による防除は効果的・効率的な防除を行う上で必要な技術の一つです。今後も、マイナー作物の安定生産を図るため、農薬登録促進に向けた取り組みを継続していく必要があります。



本年度は葉たまねぎの薬剤試験を実施

注意 キクビスカシバによるキウイフルーツの被害を初確認！

県内の主要なキウイフルーツ産地において、枝が枯れ込んだり樹勢が低下する等の症状が発生しています。枝には害虫の食入痕が認められており、昨年主要産地のキウイ園を関係機関と調査したところ、「キクビスカシバ」による被害であることを、県内で初確認しました。本虫は、元々キウイと同じマタタビ科の植物に寄生する昆虫ですが、近年は九州及び四国においてキウイフルーツでの被害が報告されています。



成虫（左：雌、右：雄）
（佐賀県果樹試験場原図）

生態

成虫は胸部の前端と腹部第2節に黄色の細い帯、腹部第4節に黄色の幅広い帯があり、9～10月に発生し葉柄基部等に直径約1mmの卵を産卵します。越冬した卵は4月頃にふ化し、新梢に食入します。食入した幼虫は枝内で蛹化し、羽化する時は蛹殻が枝から半分出た状態で残ります。

被害

幼虫が食入した枝は葉が枯死したり、伸長が抑制されたりします。食入部からは虫糞が排出されるので判別できます。

防除方法

枝から虫糞が出ている部分を目安に、幼虫が食入していると思われる枝を除去します。なお平成25年3月現在、本種に登録のある農薬はありません。



1年生枝の食入痕



1年生枝内の幼虫（7月）



蛹殻

注意 すももに斑入果（ふいりか）病が発生！

平成24年6月、県内の施設栽培のすももの果実表面にキリンの斑紋に似た斑入り模様の症状が発生しました。これを独立行政法人農業食品産業機構果樹研究所で調査の結果、ホップ矮化ウイルス Plum 系統による「すもも斑入果（ふいりか）病」と確認されました。

現在の発生地域は限られていますが、本病と類似の症状を認めたら、病虫害防除所または関係機関へご連絡をお願いします。

病徴

大石早生、サンタローザ、太陽等の品種では、果面が斑入果症状となり、果粉の形成が薄くまだらとなります。ソルダムでは斑入果の症状は見られませんが、果粉の形成が悪く果面が油を塗ったように光り、果肉は硬く黄色がかり、成熟期になっても鮮紅色とならず黄果症状となります。

果実の成熟期は7～10日ほど遅れ、軟化も遅れます。また舌ざわりが悪く食味は低下します。なお症状は果実にのみ認められ、葉や新梢には発生しません。

感染植物

本ウイルス Plum 系統の自然感染は、すもものみ確認されています。

防除方法

発病樹は伐採し、健全樹に更新しますが、発病園から穂木は採取しないようにします。枝管理に使用するはさみや鋸等は、塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム含有）等で消毒し、水洗して用います。



大石早生の症状

ジャガイモ疫病を効果的・効率的に防除するために！ ～ジャガイモ疫病発生予察モデル（FLABS）～

馬鈴薯は長崎県を代表する農産物で春・秋作の年間2作で約4000haが作付けされています。馬鈴薯には様々な病害虫が発生しますが、疫病は最も恐ろしい病気の一つです。気温が20くらいで雨が多いと多発し、一旦発生すると蔓延が早く、茎葉がまたたく間に枯れるので被害も大きくなります。防除は予防的な薬剤散布が主体となりますが、蔓延が早いいため手遅れになることもしばしばです。逆に、好天が続くと発生が少なくなるため、防除開始のタイミングや要否の判断が難しい病気といえます。

効果的で効率的な疫病防除のため、長崎県農林技術開発センターにおいて、北海道で開発・実用化されている疫病発生予察モデルを基に長崎県の気象条件や作型に適合させた改変システムが構築されました。



ジャガイモ疫病



ジャガイモ疫病の発生状況

このモデルでは、気象データ（最高気温、最低気温、平均気温、降雨量）を疫病の発病好適基準に従って感染好適指数に換算します。馬鈴薯の出芽期以降の日毎の気象データから得られた感染好適指数を累積して発病時期を予測します。予測に基づいて、実際の圃場における発生状況を確認し、適期に防除を行うことで効果的で効率的な防除が可能になると考えられます。

病害虫防除所では、平成24年の春作から当モデルで得られた予測結果を発生予察情報として発表しています。ただし、現場における運用は始まったばかりなのでデータの蓄積を重ねさらに精度の向上を図っていく必要があります。



昆虫まめ知識 ～何でも食べます、好き嫌い殆どなし！～

初めまして、ではなく、農家の皆様方にはいつもお世話(?)になっております、僕(?)の名前はハスモンヨトウです。

一応、自己紹介をさせていただきます。

僕ら、幼虫の時は何でも食べる蛾でして、花や野菜はもちろん、果樹でも牧草でも雑草でも・・・おっと、イネ科の植物は好みじゃないです。

だけどオオタバコガさんと違って幼虫の共食いなんかしませんので、僕ら正真正銘の草食系男子なんです。

出身はフィリピンや中国南部で、一部は国内で越冬します。

そんな遠くからどうやって来るかというと、ウンカさん達と同じで下層ジェット気流に乗って飛んでくるんです。

あと、台風に乗って来たりもするんですよ。

気流に乗る以外に、僕ら男性陣は一晩に20km近く飛べるんです。

苦労して辿り着いた日本で、さて、子孫繁栄!・・・といきたいのですが、何せただの芋虫なんで、天敵には容赦なく食べられるわ、病気にかかって死ぬわ、農家の皆様には薬剤防除されるわ、素敵な女性の匂いに騙されて罠にはまるわ(フェロモントラップとか言うらしいです)、苦労が絶えないんです。

ということで、今後ともよろしく(?)お願いします!



アスパラガスおいしいですよ～



白きょう菌で亡くなった僕らの仲間